

文大生の 故郷と都留 9



都留からもらった宝物

～大学を開いてより豊かな街に～

初等教育学科4年

橋屋麻知子

私が初めて都留の街に足を踏み入れたのは、今から4年前、石川県から車で下宿を探しに来た日のことでした。東京方面から車で来たのですが、段々と山が多くなり、いつの間にか山に囲まれてしまっていました。こんなにたくさん、大きくて重なり合った山々に囲まれたのは、初めての体験でした。私の育った石川県の七尾市という所は、能登半島の中程にあり、港町として栄えてきました。少し内陸に入ると、水田がどこまでも続く稲作地帯です。山もあります。低いものばかりでほとんどが平野です。私の家はその中でも港のすぐ側で、潮の香りをかきながら育ちました。果てしなく続く海を見ていると、よく心が落ち着いてスーッとしたものです。夏には素潜りで、サザエや、しただみ（小さな巻き貝。煮て食べると美味しい）を取りました。水中は美しい色の藻、ヒトデ、ウニ、魚、貝などいろいろ

な生き物がおり、別世界が広がっています。潜っているだけでとても楽しいんですよ。その分、家の周りには、市場や商店街、倉庫、工場などがあり、緑といえば、公園ぐらいしかありませんでした。そんな町に育ってきたものですから、最初はすぐ隣が山という環境が、何だか圧迫感があり、息苦しい感じがしていました。一人暮らしの不安に加えてか、駅やお店も大きくなく、山に囲まれているので閉ざされていて淋しい所という感じもしました。



七尾湾

でも住んでみるとそれが段々と、とっても心地よい所に変わっていったのです。まず、朝は小鳥の声で目を覚ますことができました。鶯の声も聞けました。夜には月や星がとても明るかった。月明かりで影踏みができることを初めて知りました。星の数も七尾の倍はありました。友人とよく楽山へ星を観に行き、流れ星もいくつも

観ました。そして水は冷たくて美味しい。都留で暮らして初めて七尾の水が臭かったことに気づいたんです。それに空気もとても美味しいです。酸素がたっぷりあって、季節や天気によって違った空気の匂いがあるのが好きです。この水と空気のせいだと思おうのですがアトピーも良くなってきたんです。そして何といってもこの山々。夏には生き生きと輝いた緑が視界いっぱい飛び込んできます。そして秋の鮮やかな山。あの、もこもこしたいろいろな色が混じり合った感じは、公園や数本の木では味わえませんが、自然が創る大きな芸術という感じです。見る度に感激しています。冬の、雪で染まった白い山も好きですし、春にはあちこちで桜が見られてとっても幸せな気分になりました。植えた方の気持ちが込められているような気がします。初めは怖かった山が、季節によって次々と違った姿を見せてくれるのは、今でも感激しています。

こんなことは、ここで生まれ育った都留の皆さんにとっては当たり前のことなのでしょう。私が、私にとっては全てが新鮮で、今では山に囲まれたこの土地が大好きになりました。この環境のおかげで、ゆったりとした気持ちで自分を見つめることができました。また、自然は、人間の心と体にたっぷり栄養を与えてくれるということを体で感じることもできました。都留の自然とともに四年間暮らしたことで、少し心が豊かになったと思いますし、この経験は私の一生に少なからず影響を与えていくだろうと感じています。この環境を与えてくれた都留の皆さんに感謝しています。

都留からステキな物を貰ったので、今度はぜひ七尾の海も紹介したいと思います。都留の子どもたちには海のすばらしさも知ってほしいです。一度遊びに来てください。そこでもっと、都留の方と交流が深められたら良かったと今さらながら思いました。そうすれば、もっと都留の良い所も発見できたかもしれません。全国から集まった学生と都留の皆さんが交わり、文化を紹介し合うことで何かが生まれていけばいいと思います。

それから、このすばらしい自然を壊さないでそのままにしておいてほしいです。心が豊かになる街。ということで大学をもっと開いて、それぞれの専門の教授や学生がいてそのような施設があることを生かして、市民も学生も学びたいことや興味あることを自由に学べてお互いに影響し合える街にしていけば、”自然”と”学び”のある豊かな街になっていくと思います。

都留は私の第二の故郷。良い街になってほしいです。